

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 17 日付

## 京畿道および江原道の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出（野生いのしし 82-83 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1189770&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)坡州(パジュシ)市および江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョングン)広域フェンスの中で発見された野生いのししの死体から ASF ウイルスが検出されたと 1 月 17 日明らかにした。

坡州市(パジュシ)長湍面(チャンダンミョン)で発見された死体は環境部と国防部合同で毎週水曜日に実施する 2 次フェンス内部の捜索中に環境部捜索チームによって畑で発見され、華川郡(ファチョングン)華川邑(ファチョンウプ)で発見された死体は国立生物資源館の調査員によって山で発見された。

坡州市(パジュシ)および華川郡(ファチョングン)は ASF 標準行動指針(SOP)により試料採取後防疫措置とともに死体を処理した。

国立環境科学院は 1 月 17 日、ASF 陽性の結果を関係機関に通知した。これで坡州(パジュ)では 28 件、華川(ファチョン)では 8 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 83 件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全て広域フェンス内で発見された。軍と協力してこの地域で死体捜索を強化する予定だ"と話した。

以上